

第 2 回揖保川流域懇談会 議事概要

開催日時：平成 31 年 2 月 22 日(金)13:00～15:00

場所：姫路・西はりま地場産業センター 5F 501 会議室

委員出欠数：出席 4 名，欠席 2 名（入江委員、藤田委員）

～ 議事経過 ～

(1) 揖保川流域懇談会規約および情報公開方針について

事務局より揖保川流域懇談会規約および情報公開方針について確認がなされた。

(2) 揖保川水系河川整備計画の進捗状況について

事務局より揖保川水系河川整備計画の進捗状況について説明がなされた。主な意見および審議内容は以下のとおり。（○：委員発言，→：事務局発言）

1) 資料 4（治水）について

- 30km 付近で整備が進んで流下能力が向上しているのに対し、その下流側で幾つか整備計画目標流量に達していない箇所や、今後の整備が予定されていない箇所がある点気になる。
 - 浸水箇所が農地であり、優先順位が低い箇所である。

- 28km 付近で整備計画の目標流量が 1600m³/s から 2000m³/s に上がっているのは何故か。
 - 支川の菅野川の合流により、計画上の流量が見込まれている。

- H28 年度から実施している水防災意識社会再構築ビジョンをうけた粘り強い堤防の事業は河川整備計画の対象外か。その総延長はどのくらいか。
 - 水防災意識社会再構築ビジョンは河川整備計画以降に出てきた概念になり、大きな意味では整備計画の範囲であるが数値としては示されていない。総延長では両岸で約 13.5km である。

- 河川整備計画の対象洪水である S51 出水より大きな流量となっている出水も見られるが、S51 出水が大きな被災（浸水面積、被害額）となった理由は何か。
 - S51 出水と H21 出水の一番大きな違いは雨の降った場所である。S51 は市街地が多くある支川（下流部）で降り、H21 は宍粟市（上流部）でかなり降っており、急流河川であり水の出方も違った。整備計画の考え方としては、被害の大きかったものを対象としたため、S51 が対象洪水となっている。

- H21 出水に対する再度災害防止は、S51 出水を対象とした工事施工箇所と違いが生じているのか。
 - 基本的には整備計画の対象箇所となっているが、通常、上下流バランスを考慮した場合に後になる箇所でも市役所のような拠点に関連する箇所を第一段階として前倒して整

備したイメージである。

2) 資料4 (利水、環境) について

- 丸石河原の再生が計画的に継続的に実施されていて良いが、外来種対策は継続的に行われているのか。
 - 現場で目につけば適宜実施しているが、同地点で継続的には実施できていない。継続的に実施する方法を考える必要がある。

- 自然再生のハード面での整備と並行し、地域や行政と手を組んで外来種駆除を進めていくといったソフト対策を継続的に実施することも必要である。
 - 地域と共に河川管理を実施していくことは重要と考えているためご指導頂きたい。

- 6月に水量が少ないが、対策は考えているか。揖保川流域には農地や山林が多いが、水量が減っているのは何故か。
 - 昨年、一昨年は上流ダムからの補給も行ったが、空梅雨気味であったことが原因だったと思われる。このようなときは、関係者により会議を開き、取水制限等の対応について協議を行っている。

- 「かわまちづくり」を利用した水辺空間の整備とは具体的にどのようなものか。
 - 河川整備とまちづくりが一緒になり、水辺の賑わいを作り出すという取り組みである。H29年に完成しているが、国の築堤事業と宍粟市の河原の公園整備事業をあわせて行った。

- 砂利採取計画は丸石河原の形成と関係しているのか。
 - 砂利採取計画は構造物への影響等を考慮し採取箇所等を決める計画であるが、揖保川では現在のところ砂利採取は実施しておらず丸石河原への影響はないと認識している。

- 丸石河原再生の対策は、土砂を撤去すると元々あった丸石河原が露出してくるといふことか。
 - 昔と現在の航空写真を比較し、以前、丸石河原があったと思われる箇所において、河原を切り下げれば丸石河原が出てくるという考えである。

3) 資料4 (管理、地域連携) について

- 河川近傍の道路整備について、市町との連携として、どのようなあり方を考えているか。道路は河川と宅地を分断すると思われるため、歩道の断面を多くしたり、横断し易いようにする等、設計にあたって工夫をお願いしたい。
 - 堤防と道路の供用は、基本的には河川堤防の機能を満足したうえで道路を付け足すイメージである。堤防として管理し易く、道路として使い易い形を県、市と話し合いながら決めていく。

- 刈草、伐採木の利用の取り組みは良いと思う。輪伐の場所、実施時期は具体的に決まっ

- ているのか。生物等の環境を考慮して計画的に分散して伐採されるのが望ましい。
- 計画は作成しているが、予算や繁茂状況に応じて適宜実施しており、必ずしも計画どおりに実施されていない。
- 揖保川の河川整備計画の目標は確率年で言えば 1/10 程度と通常より少し低めと思われ、整備計画が完了しても本川の溢水等が起こる可能性が考えられる。その場合、避難により命を守る努力を進めるべきであるが、ハザードマップや避難場所の周知等、地域に対する啓蒙の取り組みは如何か。
- 各首長による治水対策に関する促進協議会とは別に、命を守る対策を目的とした減災対策協議会を設立している。これにより市町村との連携が強まり、各者がどういうことをやるべきか実務的なことを考えられるようになり良い方向に進んでいる。
- 避難行動に関する一市民までの情報提供の取り組みは如何か。
- H21 出水を契機に、ハザードマップを元に自治会単位のマイ防災マップを作成するような取り組みを行っている。減災協議会でも、どうすれば市民に伝わるか？ということが論点になり、解決策を議論している。
- 揖保川としては、堰を改築する際の魚道の整備など、多自然の川づくりの事例として他の河川の見本となって欲しい。
- これから堰の改築等があるため、色々と研究していきたい。

以上